

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	大原 啓市・唐澤 克樹		
授 業 科 目	情報処理論		科目区分	関連科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	Adobe Creative Cloud を利用した印刷デザイン・動画編集について学習する。 学生が、学士論文作成において、必要となる基本的な論文作成術とテーマ設定時での試行錯誤を情報処理論やコンピュータ、インターネット利用の視点から必要不可欠となるポイントについて講義する。				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンのログイン, G Suite の活用 (担当: 大原) 2. Adobe Indesign を利用したフライヤー作成 (担当: 大原) 3. Adobe Indesign を利用した小冊子作成 (担当: 大原) 4. Adobe Illustrator を利用した名刺作成とフライヤー作成 (担当: 大原) 5. Adobe Premiere Pro を利用した動画作成 (担当: 大原) 6. Adobe DC を利用した e ポートフォリオ作成について (担当: 大原) 7. Google Apps を利用した WEB アンケートフォーム作成 (担当: 大原) 8. Google Apps を利用した WEB アンケート集計分析 (担当: 大原) 9. 論文の構成: 「問い」と「答え」 (担当: 唐澤) 10. 文献の探し方, 図書館の活用 (担当: 唐澤) 11. 社会調査 (1): 量的調査法 (担当: 唐澤) 12. 社会調査 (2): 質的調査法 (担当: 唐澤) 13. 論文の表現 (1): 専門用語, 正確な表記・文体 (担当: 唐澤) 14. 論文の表現 (2): 明晰な文章の展開, 書き手の責任 (担当: 唐澤) 15. 論文作成とまとめ (担当: 唐澤) <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	論文・レポートの基本: 石黒 圭 (著); 日本実業出版社				
準備学習の 具体的内容	指定した教科書を熟読して授業にのぞむこと。				
評価の方法 基 準	授業態度 (20%) 授業中で行う演習課題 (80%)				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	海本 友子		
授 業 科 目	国語表現法演習		科目区分	関連科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年 次 ・ 前 期
授業の主題 目 標	話しことば、書きことばの両面から国語の効果的な表現方法を学び、演習を通して実践力を養うことを目標とする。話しことばの面では、基礎的、基本的なことからについて理解を深めながら、実践的トレーニングを行いコミュニケーション能力を高めることをめざす。書きことばの面では、望ましい文章の条件を明らかにするとともに、文章を書く心理過程を分析しながら効果的な文章の作成法を学び、実作を通して文章表現力の向上をめざす。				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序講、聞き取り調査と友人紹介・スピーチの工夫 2. 話す技術・聞く技術 3. 話す力への自己診断チェックシートの活用 4. 話す力の改善点 5. 敬語の種類 6. 敬語の使い方 7. 文章構成と文章表現 8. 読み手聞き手を惹きつける文章の組み立て方 9. 用語と表記、表現上の諸問題 10. レポートの書き方 11. 小論文、論文の書き方 12. 就職活動の準備（エントリーシート・自己推薦の書き方など） 13. 手紙の書き方 14. 新聞記事の構成 15. 社説コラムの文章 <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	テキスト 頭がいい人の文章の書き方（小泉十三他，河出書房新社） 参考図書 文章表現入門（演習編）（速水博司，蒼丘書林） 話す力が面白いほどつく本（櫻井弘，三笠書房）				
準備学習の 具体的内容	課題とする文章作成の下書き，構成案。				
評価の方法 基 準	授業への取り組み（50%） レポート（50%）				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	及川 直樹		
授 業 科 目	スポーツ1		科目区分	関連科目	1 単 位
必修・選択	必修	授業形態	実技	開 講 時 期	1年次・前期
授業の主題 目 標	本授業では、スポーツ・運動の楽しさや心地よさを味わうために、これまでに体育等ではあまり経験することのなかったスポーツ・運動を主に実践します。それにより、体力の維持・増進を図るとともに、生涯にわたって健康を保持しようとする意欲や態度を身に付けます。				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス、新体力テスト、スポーツスタッキング 2. バッジー 3. ボッチャ 4. ピロポロ①：基礎的・応用的技能の練習 5. ピロポロ②：ゲームとスキルテスト 6. ミニテニス（シングルス）①：基礎的・応用的技能の練習 7. ミニテニス（シングルス）②：ゲームとスキルテスト 8. ビーチボールバレー①：基礎的・応用的技能の練習 9. ビーチボールバレー②：ゲームとスキルテスト 10. プレルボール①：基礎的・応用的技能の練習 11. プレルボール②：ゲームとスキルテスト 12. キンボール①：基礎的・応用的技能の練習 13. キンボール②：ゲームとスキルテスト 14. 卓球（シングルス）①：基礎的・応用的技能の練習 15. 卓球（シングルス）②：ゲームとスキルテスト <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『観るまえに読む大修館スポーツルール 2021』（大修館書店編集部） 必要に応じて、適宜資料を配布します。				
準備学習の 具体的内容	普段から軽い運動（体操やストレッチ、ウォーキング等）を行い、体力や体調の維持に努めること。				
評価の方法 基 準	各運動に取り組む姿勢、会場設営や所属チームへの貢献度（10%） スキルテスト（90%）				
履 修 上 の 注 意	ジャージ等の運動ができる服装、体育館用シューズ、タオル、水分補給用の飲み物を準備して臨むこと。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	及川 直樹		
授 業 科 目	スポーツ2		科目区分	関連科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	実技	開 講 時 期	2年次・後期
授業の主題 目 標	<p>本授業では、これまでに体育等で経験してきたスポーツ・運動について、用具を工夫したり、ルールや形式を変えたりすることにより、やや負荷を高くして実践します。それにより、体力の維持・増進を図るとともに、生涯にわたって健康を保持しようとする意欲や態度を身に付けます。</p> <p>※必ずジャージ等の運動ができる服装、体育館用シューズ、タオル、水分補給用の飲み物を準備して臨んでください。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス、新体力テスト 2. 三角ベース①：基礎的・応用的技能の練習 3. 三角ベース②：ゲームとスキルテスト 4. キックベースボール 5. プレルボール（ダブルス） 6. ミニテニス（ダブルス） 7. ソフトテニス（ダブルス） 8. ソフトテニス（シングルス） 9. バドミントン（シングルス）①：基礎的・応用的技能の練習 10. バドミントン（シングルス）②：ゲームとスキルテスト 11. バスケットボール（3on3）①：基礎的・応用的技能の練習 12. バスケットボール（3on3）②：ゲーム 13. バスケットボール（3on3）③：ゲームとスキルテスト 14. タグラグビー①：基礎的・応用的技能の練習 15. タグラグビー②：ゲームとスキルテスト <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『観るまえに読む大修館スポーツルール 2021』（大修館書店編集部） 必要に応じて、適宜資料を配布します。				
準備学習の 具体的内容	普段から軽い運動（体操やストレッチ、ウォーキング等）を行い、体力や体調の維持に努めること。				
評価の方法 基 準	各運動に取り組む姿勢、会場設営や所属チームへの貢献度（10%） スキルテスト（90%）				
履 修 上 の 注 意	寒暖差の大きい体育館で、身体的負荷の大きい運動・スポーツを安全に行うため、授業に臨む意識が高く、教員の指示に従いながら積極的に実技に取り組むことのできる学生のみ履修すること。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	宮崎 正宇 (実務経験あり)		
授 業 科 目	生活福祉論		科目区分	関連科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	<p>(授業の主題) 社会福祉の意義や法制度について学ぶとともに、生活者の視点から、社会福祉の現状と課題について理解する。</p> <p>(到達目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の意義について理解できる。 2. 社会福祉の法制度について説明できる。 3. 社会福祉の現状と課題について理解できる。 				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会の動向と社会福祉 2. 欧米の社会福祉の歴史 3. 日本の社会福祉の歴史 4. 社会福祉法制 5. 社会福祉の実施体制 6. 社会福祉施設と専門職 7. 社会保障制度 (1) 社会保険 8. 社会保障制度 (2) 公的扶助 9. 子ども家庭福祉の法制度 10. 子育て支援にかかる今日的動向 11. 高齢者福祉の法制度 12. 障がい者福祉の法制度 13. 社会福祉とソーシャルワーク 13. 福祉サービスの利用支援と権利擁護 14. 地域福祉の推進 15. 社会福祉の動向と課題 <p>定期試験は実施しない。</p>				
実務経験を 活かす内容	児童福祉施設での個人的な体験や相談援助の事例を通して、体系的・実践的な相談援助の価値、知識、技術を教授する。				
テ キ ス ト 教 材	志濃原亜美編集『みらい×子どもの福祉ボックス 社会福祉』みらい 2020 年 必要に応じて資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	テキストの該当部分を予習・復習する。 授業の中で、調べる必要がある事柄について調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	受講態度 (10%) コメントシート (60%) レポート (30%)				
履 修 上 の 注 意					

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	松内 紀之		
授 業 科 目	造形表現論		科目区分	関連科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1, 2年次・前期 (隔年)
授業の主題 目 標	<p>過去の卒業研究や各種論文を中心に紹介しながら、学術論文作成に係る資料収集方法、整理と資料のまとめ方について考えてゆき、ある程度独力で、論文構成ができることを目指す。</p> <p>中盤以降は輪番でデザイン学系論文読解と紹介を行ってもらい、実践的に論文構成を身に着けることを目標とする。</p> <p>中盤以降は輪番で各回のテーマに沿った発表と議論を行い、実践的な思考力を身に着けることを目標とする。おおよそ5回目～14回目は、輪番で論文を購読しその内容を紹介する。あるいは、特定のテーマに基づいた調査を行い、その結果を発表してもらおう。なお、5回目から9回目は担当者が題材を指定し、10回目から14回目はできる限り、受講者のテーマに沿った題材とする。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本授業の概要説明, 論文構成の図解・図示方法解説 2. 事例 (学術論文その1; 基礎デザインに関する論考) 紹介 3. 事例 (学術論文その2; デザイン思想に関する論考) 紹介 4. 事例 (学術論文その3; 祭礼に関する論考) 紹介 5. 受講者による事例 (学術論文その4; 映像に関する論考) 紹介と討議 6. 受講者による事例 (学術論文その5; デザイン史に関する論考) 紹介と討議 7. 受講者による事例 (学術論文その6; 道具論に関する論考) 紹介と討議 8. 受講者による事例 (学術論文その7; 物づくりと地域開発に関する論考) 紹介と討議 9. 受講者による事例 (学術論文その8; 道具学に関する論考) 紹介と討議 10. 受講者による事例 (学術論文その9; 絵画に関する論考等) 紹介と討議 11. 受講者による事例 (学術論文その10; 服飾に関する論考等) 紹介と討議 12. 受講者による事例 (学術論文その11; 絵本に関する論考等) 紹介と討議 13. 受講者による事例 (学術論文その12; 都市に関する論考等) 紹介と討議 14. 受講者による事例 (学術論文その13; 祭礼に関する論考等) 紹介と討議 15. 試験と授業のまとめ 				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>必要に応じてプリント配布</p> <p>参考図書; 『図解作成の基本』(すばる舎)</p> <p>参考図書; 『見やすい資料のデザイン入門』(インプレス)</p>				
準備学習の 具体的内容	発表担当に際しては、事前に担当教員と打ち合わせの上、発表準備をする必要がある。				
評価の方法 基 準	発表 (40%) 数回の提出レポート (40%), 試験 (20%)				
履 修 上 の 注 意	履修者の学修状況によっては内容を変更する場合がある。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	松内 紀之 (実務経験あり)		
授 業 科 目	立体制作論	科目区分	関連科目	2 単 位	
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	2年次・前期
授業の主題 目 標	<p>ディスプレイデザインについて基礎知識と独自の視点を養い、比較・検討・議論を行う。 そのために先ず、ディスプレイの成り立ちを把握し、基本的・部分的な制作を通じてディスプレイデザインの基礎知識を身に着ける。 具体的には、まず基本的・部分的な作品制作を課題作品とし、表現手法や作品の背景をなす文化的事象を含めた議論を行う。 授業終盤では、立体制作物・スピーチ・画像を交えたプレゼンテーションを行うこと。 その際、各課題を通じて獲得した造形的感覚・服飾販売に係るアイデア・作品の背景をなす文化的事象が含まれていること、を目標とする。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. ディスプレイデザインについて 2. ディスプレイデザインの研究事例解題 (解説) 3. ディスプレイデザインの研究事例解題 (討議) 4. ディスプレイデザイン実例の検討 (解説) 5. ディスプレイデザイン実例の検討 (見学) 6. ディスプレイデザイン実例の検討 (討議) 7. デジタルカメラの基本確認・撮影演習 8. ディスプレイのグラフィックについて 9. ディスプレイのグラフィック制作 10. ロゴマークについて 11. ディスプレイデザインのライティングと光のオブジェについて 12. 制作するまとめ作品に関する発表・討議 13. 作品プレゼンテーション準備 14. 作品プレゼンテーション演習 15. 授業のまとめと試験 				
実務経験を 活かす内容	<p>インテリアデザイン事務所での実務経験を生かし、基礎知識と発想力を鍛える。 発想意図を伝達するに必要な表現力 (スケッチ・制作・撮影) に係る実践的教育を行う。</p>				
テ キ ス ト 教 材	<p>必要に応じてプリントを配布する。 参考図書；『ディスプレイデザイン』(SD 選書)</p>				
準備学習の 具体的内容	<p>授業中に完成しなかった課題は次回授業までの宿題として課すことがある。 課題制作のための道具と材料を準備する必要がある。</p>				
評価の方法 基 準	<p>月に2回程度の提出物 (20%)、制作姿勢 (20%) 試験 (10%)、期末提出作品 (50%)</p>				
履 修 上 の 注 意					

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	三川美幸 (実務経験あり)		
授 業 科 目	幼児の音楽遊び演習 I		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1, 2 年次・前期 (隔年)
授業の主題 目 標	<p>幼児が日常の生活の中で創造性を育むための音楽遊びの手法を認識し、より高度な援助技術について理解を深める。 到達目標：保育者の声や楽器などの様々な音楽表現技術について実践を通して認識する。各種の音楽媒体における特徴と援助方法について理解する。既習の音楽知識を用いて、音楽あそびを創造することができる。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽遊びと保育者の援助について 2. 生活の中での音との関わり 3. 音・言葉からの発展 4. 表現を支える伴奏について：ピアノ 5. 簡易伴奏楽器と和音の機能 6. 伴奏の方法 7. ピアノの使用 8. 身体活動と音楽 9. 子どもの発達と楽器 10. 和音の機能 11. アンサンブル 12. あそびうた 13. 視覚的媒体 14. 児童文化財の利用 15. 作品の発表とまとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容	保育臨床現場での実務経験を活かし、様々な子どもの表現を引き出す保育援助について実践的な教育を行います。				
テ キ ス ト 教 材	<ul style="list-style-type: none"> ・石井玲子著「表現者を育てるための保育内容音楽表現：音遊びから音楽表現へ」音楽之友社 ・文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館 <p>参考書：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小林実美編「こどものうた 200」チャイルド本社 ・小林実美編「続こどものうた 200」チャイルド本社 				
準備学習の 具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・提示される演習課題について事前学習を行う。 ・授業に関連する内容の事前調査を求める場合がある。 				
評価の方法 基 準	課題提出・授業中に課す課題への取り組み (40%)、課題発表 (40%)、レポート (20%)				
履 修 上 の 注 意	自己表現の演習およびディスカッションに積極的に参加することを求める。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	三川美幸 (実務経験あり)		
授 業 科 目	幼児の音楽遊び演習Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1,2年次・後期 (隔年)
授業の主題 目 標	<p>保育領域において、重要性が認識され始めている音楽療法的なアプローチを使用した音楽遊びの手法を紹介する。園の日常生活に即した楽曲を使用し、即興活動を中心としたアンサンブルを行う中で、既習の音楽技術をさらに向上させ、音楽表現の多様性について理解を深める。</p> <p>到達目標：音楽遊びを引き出す伴奏楽器を含む楽器の特性と操作技術を理解する。多様な音楽遊びの音楽表現について認識する。創造的な遊びが創作できる。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育領域における遊びと音楽療法的視点 2. 即興の手法と音楽あそび・園生活 3. 導入のあそび 4. 太鼓のあそび・コミュニケーション 5. うごきの誘発 6. 音楽と様式 7. 音楽とイメージ 8. 音楽で伝えること 9. 季節と音楽 (春・夏) 10. 季節と音楽 (秋・冬) 11. 絵本と音楽 12. 創作あそび 13. 既存曲の利用 14. 音楽あそびの計画・実施 15. 作品の発表とまとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容	保育臨床現場での実務経験を活かし、様々な子どもの表現を引き出す保育援助について実践的な教育を行います。				
テ キ ス ト 教 材	<ul style="list-style-type: none"> ・高山仁著「みんなで音楽」音楽之友社 ・必要に応じて資料を配布する。 ・五線譜ノート <p>参考書：小林実美編「こどものうた200」チャイルド本社</p>				
準備学習の 具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・提示される演習課題について事前学習を行う。 ・授業に関連する内容の事前調査を求める場合がある。 				
評価の方法 基 準	課題提出・授業中に課す課題への取り組み (40%)、課題発表 (40%)、レポート (20%)				
履 修 上 の 注 意	自己表現の演習およびディスカッションに積極的に参加することを求める。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	金山和彦		
授 業 科 目	幼児の造形遊び演習		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1, 2 年次・前期 (隔年)
授業の主題 目 標	保育活動におけるさまざまな造形技法を試みることで学生自らが成功体験を持つことをねらいとする。地域における各園と連携し、幼児を取り巻く地域環境を造形的側面から捉える。また、園行事における大型作品製作などの過程を通して楽しみや安全、美的要素を確認する。				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 近代デザインの系譜について スライドショー 2. 鉛筆デッサン制作から相互鑑賞, 講評 3. 石膏の型抜き技法 恐竜化石の発見 4. 専攻科学年のTシャツデザイン 5. 秋の作品・コラグラフ版画 構図, 素材収集 6. 秋の作品・コラグラフ版画 コラージュ, 転写 7. 保育者と幼児と共に作るダンボールの大型舞台作品①製図 着想したものをダンボールに転写して図面を引く 8. 保育者と幼児と共に作るダンボールの大型舞台作品②切断 レンプロソーで切断する 9. 保育者と幼児と共に作るダンボールの大型舞台作品③加工 ボンド, ねじ止めで接続する 10. 保育者と幼児と共に作るダンボールの大型舞台作品④安全確認 鑑賞と安全確認 11. 各学生が主題を決めて10分間の造形あそび模擬授業 12. 幼児, 作家の例を通してアクション・ペインティングを試みる 13. 「こどもの森」で発表する作品制作①書割の製作方法, 板のカット, 加工 14. 「こどもの森」で発表する作品制作②書割の絵付け 15. 「こどもの森」で発表する作品制作③立位のための工夫, 展示 <p>定期試験は実施しない。</p>				
実務経験を 活かす内容	様々な子どもの表現を引き出す保育援助について, 実践的な造形活動を行います。				
テ キ ス ト 教 材	造形用具を各自で用意すること (セットの中身は別紙にて指示いたします) 『幼稚園教育要領』 『保育所保育指針』				
準備学習の 具体的内容	指示した教材・素材等の準備				
評価の方法 基 準	作品提出 (60%), 協同製作への貢献度 (30%), ポートフォリオ (10%) ※学修成果を学科行事・子どもの森において作品発表する機会を持つ。				
履 修 上 の 注 意	授業後, 10分間のオフィスアワーを設け, 保育実践に関わる相談を受け付ける。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	別府 祐子 (実務経験あり)		
授 業 科 目	音楽指導法特別演習 I	科目区分	専門科目	2 単 位	
必修・選択	必修	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年次・通年
授業の主題 目 標	<p>(1) 幼稚園教育要領・保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された表現のねらい及び内容をおさえた上で、近年の保育実践の動向や、既存の音楽メソッド等をふまえて、より広い視点から、音楽に係る表現の多様なあり方を捉え、表現活動についての知見を深める。</p> <p>(2) これまでの学修を基礎として、乳幼児の発達に即し、主体的・対話的で深い学びが実現する過程をふまえて、より応用的・発展的に表現活動の具体的な指導場面を想定し、保育を構想・計画・指導・実践する力を高める。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 表現のねらい及び内容と音楽表現 2. 乳児の発達と音楽的表現 (具体的な事例や映像からの考察を含む) と指導の留意点・保育者の役割 3. 幼児の発達と音楽的表現 (具体的な事例や映像からの考察を含む) と指導の留意点・保育者の役割 4. 「聴く」ということについての視座 5. 「自然環境の中の音」教材研究 (1) 春の音 6. 乳幼児の歌唱表現 7. 乳幼児の歌唱指導/指導案の立案・検討 (1) 歌あそび (3 歳未満児を対象として) 8. 模擬保育 (1) 歌あそび (3 歳未満児を対象として) / 模擬保育振り返り (録画映像による) 9. 指導案の立案・検討 (2) 歌あそび (3 歳以上児を対象として) 10. 模擬保育 (2) 歌あそび (3 歳以上児を対象として) / 模擬保育振り返り (録画映像による) 11. 小括 (乳幼児の歌唱表現とその指導) / 「自然環境の中の音」教材研究 (2) 夏の音 12. ダルクローズの音楽教育 13. 指導案の立案・検討 (3) 音楽と体の動きによる表現を取り入れた遊び 14. 模擬保育 (3) 音楽と体の動きによる表現を取り入れた遊び/模擬保育振り返り (録画映像による) 15. 表現活動における情報機器及び教材の活用について 16. オルフの音楽教育 (1) 概論 17. オルフの音楽教育 (2) オルフ楽器の活用 18. 乳幼児と楽器とのかかわり及び楽器の扱い方/指導案の立案・検討 (4) 楽器を用いた遊び 19. 模擬保育 (4) 楽器を用いた遊び/模擬保育振り返り (録画映像による) 20. 「自然環境の中の音」教材研究 (3) 秋の音の楽器づくり 21. わらべうた/コダーイの音楽教育 22. 指導案の立案・検討 (5) わらべうたを用いた遊び 23. 模擬保育 (5) わらべうたを用いた遊び/模擬保育振り返り (録画映像による) 24. 音を描く活動・音の様々な表し方 (図形楽譜等) 25. 創造的音楽づくり 26. 指導案の立案・検討 (6) 音楽づくりの活動 27. 模擬保育 (6) 音楽づくりの活動/模擬保育振り返り (録画映像による) 28. 日本における乳幼児の音楽教育の史的変遷とこれからの表現の指導のあり方現代的課題 29. 「自然環境の中の音」教材研究 (4) 冬の音/幼児期の表現活動と小学校の教科との学びの連続性について 30. 音楽表現の評価のあり方とは/音楽表現・その指導法の動向について <p>定期試験は実施しない。</p>				
実務経験を 活かす内容	中学校音楽教諭としての実務経験を生かして、音楽に係る多様な表現のあり方や、豊かな表現を引き出すための指導法について、実践的な教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	石井玲子編『実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現』保育出版社 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』, 文部科学省『幼稚園教育要領』, 厚生労働省『保育所保育指針』 上記テキスト以外にも、適宜、参考書を紹介する。				
準備学習の 具体的内容	テキストによる予習・復習を行う。 指導案作成や模擬保育を実施する授業回には、準備学習として教材研究を行ってくる。				
評価の方法 基 準	指導案・模擬保育・模擬保育の振り返り (50%) レポート課題 (50%)				
履 修 上 の 注 意	事前準備をしてから、授業に臨むこと。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	別府 祐子		
授 業 科 目	音楽指導法特別演習Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・前期
授業の主題 目 標	<p>音楽指導法特別演習Ⅰでの学修を基礎として、乳幼児の音楽表現の指導のあり方について、熟考し、実際の指導に生かすことを目的とする。 到達目標は次の2点である。</p> <p>(1) 乳幼児の音楽表現の指導のあり方について、より具体的・発展的に考えて、自分自身の意見を述べられる。</p> <p>(2) 乳幼児の音楽指導について、自らの課題を見だし、その課題に基づいて指導を計画し、実践し、評価することができる。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児の音楽的発達と適正音域について 2. 乳幼児に適した歌をつくる 3. 効果的な伴奏法・移調奏 4. 歌唱の指導実践 5. 絵本と音楽 (1) 絵本の選定と構想 6. 絵本と音楽 (2) イメージと音 7. 音楽遊びの様々なアイデア 8. 効果的な指導のための視覚的工夫 9. 音楽表現指導に係る課題の整理・指導テーマの選定 10. 指導案の作成 11. 指導案の検討 12. 模擬保育 13. 指導の実践 14. 指導の振り返り・評価 15. 総括 <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>石井玲子編『実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現』保育出版社 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』, 文部科学省『幼稚園教育要領』, 厚生労働省『保育所保育指針』</p>				
準備学習の 具体的内容	<p>テキストによる予習・復習を行う。 指導案作成や模擬保育を実施する授業回には、準備学習として教材研究を行ってくる。</p>				
評価の方法 基 準	<p>指導実践 (60%) レポート課題 (40%)</p>				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	金山 和彦		
授 業 科 目	造形指導法特別演習 I		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	必修	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 標 目	<p>幼児が「表現する過程」を楽しみ、豊かな感性を味わい、表現する意欲を引き出すことが活動の基本である。これを踏まえて、本演習では「領域『表現』のねらいと内容」「保育者の援助姿勢」「幼児期の造形表現の在り方」を軸とし、保育実践に臨むための保育技術を修得する。受講生は、本演習を履修することにより(1)造形素材、道具の扱い方、(2)造形原理と子どもの造形発達段階の理解、(3)保育実践現場における造形的環境構成力を修得することができる。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション、幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領「造形表現」領域の読み取り作業、幼児における鑑賞研究の解説 2. 色彩原理（色の三要素：明度・彩度・色相、テクスチャ、リズム、ムーブメント、三原色、作品鑑賞、幼児画発達段階を知る（スライドショーによる平面・立体的発達過程、図式的描画表現特徴の把握） 3. クレヨンマーブルアート 4. 焼き板制作 (1)デザインから杉板の型紙製作 5. 焼き板制作 (2)杉板の切断 6. 焼き板制作 (3)杉板の焼付けから研磨加工へ 7. 八つ切り大のスチレン版画制作 (1)（カービング） 8. 八つ切り大のスチレン版画制作 (2)（プリンティング） 9. 八つ切り大のスチレン版画制作 (3)（幼児の誕生月のカレンダーを作る） 10. 水遊び玩具について (1)素材準備・制作 11. 水遊び玩具について (2)手作りプールにおいて水遊び玩具で遊ぶ 12. ウォッシング (1)絵付け、染め紙作り 13. ウォッシング (2)墨掛け～墨落とし、染め紙箱製作 14. マカロニ絵画制作（コラージュ～色の吹き付け） 15. 「具体美術協会について（前衛美術と子どもアート）」、授業のまとめと解説 <p>定期試験は実施しない</p> <p>※夏期課題：子どもが遊んでいる様子のスケッチ「昆虫」「動物」「こどもの遊び」</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>造形用具を各自で用意すること（セットの中身は別紙にて指示いたします）</p> <p>『幼稚園教育要領』 『保育所保育指針』</p>				
準備学習の 具体的内容	指示した教材・素材等の準備				
評価の方法 基 準	<p>作品提出 (60%) 協同製作への貢献度 (30%) ポートフォリオ (10%) ※学修成果を学科行事・子どもの森において作品発表する機会を持つ。</p>				
履 修 上 の 注 意	授業後、10 分間のオフィスアワーを設け、保育実践に関わる相談を受け付ける。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	金山 和彦		
授 業 科 目	造形指導法特別演習Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	必修	授業形態	演習	開 講 時 期	2年次・前期
授業の主題 目 標	<p>本演習では、受講生が実習で役立つ教材作りを通し、素材の特性と安全への考慮を学ぶことを目標とする。後半においては、幼稚園・保育所の造形活動と連携し、生活発表会等の舞台装置や大・小道具製作の保育的意義について検討する。受講生は、幼児に適合する舞台美術装置の形状・サイズ・色彩調和・素材・用途を吟味した加工方法を修得することで、造形保育者としてのデザイン力を養うことができる。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. トントンゴゴコトンカチあそび 2. ワークショップについて (1)技術的戦略について、スライドショー 3. ワークショップでの実践 (2)模擬授業 折り紙 4. ワークショップでの実践 (3)模擬授業 廃材工作 5. 舞台装置の制作を主とした総合表現について 6. 幼稚園・保育所の造形活動実践と連携する 幼児の造形的興味について 7. 幼稚園・保育所の舞台装置の可能性「作品提示」 8. 幼稚園・保育所の舞台装置のデザイン(1)材料構想 9. 幼稚園・保育所の舞台装置のデザイン(2)素材収集 10. 幼稚園・保育所の舞台装置の製作 (1)裁断加工 11. 幼稚園・保育所の舞台装置の製作 (2)立体構成, 接合 12. 幼稚園・保育所の舞台装置の製作 (3)着色, 仕上げ 13. 大きなオブジェ (1)展示方法構想 14. 大きなオブジェ (2)インスタレーションについて 15. 幼児造形領域における保育観についてのディスカッション：プレーンストーミングによる造形保育体系の構築 <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>造形用具を各自で購入すること (セットの中身は別紙にて指示いたします)</p> <p>『幼稚園教育要領』 『保育所保育指針』</p>				
準備学習の 具体的内容	指示した教材・素材等の準備				
評価の方法 基 準	<p>製作に関するレポート提出 (10%) ポートフォリオ (80%) 工作活動における指導内容・模擬授業 (10%) ※学修成果を学科行事・子どもの森において作品発表する機会を持つ。</p>				
履 修 上 の 注 意	授業後、10分間のオフィスアワーを設け、保育実践に関わる相談を受け付ける。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	及川 直樹		
授 業 科 目	身体・運動指導法特別演習		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1, 2 年次・通年 (隔年)
授 業 の 主 題 標 目	本授業では、幼児の発達段階や遊具・用具の特性に基づき、運動遊びの計画、実践、評価を行います。運動遊びの考案と実践をとおして、幼児期の運動遊びの適切な指導内容・方法を体験的に理解していきます。また、幼児の運動能力を正確に評価するための内容や方法を身に付けます。				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス、幼児期の運動能力の実態と園での効果的な取り組みの理解 2. 過去の指導実践の紹介、担当回とペアの決定 3. 5歳児の発育・発達段階の理解、指導計画の作成方法 4. 指導実践における内容や方法の検討：教材研究 5. 指導計画の検討①：個別添削 6. 指導計画の検討②：全体での確認 7. 指導実践①に関する模擬保育の実践 8. 指導実践①：ボールを使った運動遊び 9. 指導実践①の振り返り、指導実践①で用いた内容や方法の応用 10. 指導実践②に関する模擬保育の実践 11. 指導実践②：走る動きを含む運動遊び 12. 指導実践②の振り返り、指導実践②で用いた内容や方法の応用 13. 指導実践③に関する模擬保育の実践 14. 指導実践③：縄を使った運動遊び 15. 指導実践③の振り返り、指導実践③で用いた内容や方法の応用 16. 指導実践④に関する模擬保育の実践 17. 指導実践④：フープ・マットを使った運動遊び 18. 指導実践④の振り返り、指導実践④で用いた内容や方法の応用 19. 指導実践⑤に関する模擬保育の実践 20. 指導実践⑤：跳び箱・巧技台を使った運動遊び 21. 指導実践⑤の振り返り、指導実践⑤で用いた内容や方法の応用 22. 指導実践⑥に関する模擬保育の実践 23. 指導実践⑥：鉄棒を使った運動遊び 24. 指導実践⑥の振り返り、指導実践⑥で用いた内容や方法の応用 25. 指導実践⑦に関する模擬保育の実践 26. 指導実践⑦：サーキット遊び 27. 指導実践⑦の振り返り、指導実践⑦で用いた内容や方法の応用 28. 5歳児に対する運動遊びの指導内容や方法のまとめ 29. 幼児の運動能力の測定と評価①：測定・評価における基本的な考え方 30. 幼児の運動能力の測定と評価②：MKS 幼児運動能力検査の内容と方法の体験的理解 <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を活かす内容					
テキスト教材	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省） 『保育と幼児期の運動あそび』（萌文書林） 『幼児期運動指針実践ガイド』（杏林書院） 『幼児期における運動発達と運動遊びの指導』（ミネルヴァ書房）				
準備学習の具体的内容	テキスト等を用いて、運動遊びに関する教材研究を行うこと。 運動遊び指導の際に用いる遊具や用具、全体の環境の安全性を確認しておくこと。				
評価の方法基準	指導計画（30%）、指導実践（30%）、指導実践に対する反省・評価のレポート（20%）、まとめのレポート（20%）				
履修上の注意					

学 科	保育臨床専攻	担当教員名	小久保 圭一郎		
授 業 科 目	教育の思想と歴史		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	2年次・前期
授業の主題 目 標	<p>本教科では、子ども観の歴史の変遷、近代から現代までの教育・保育の歴史の展開について、思想や制度に焦点をあてて、議論しながら理解を深めます。その上で、教育・保育の展開を社会のあり方との関係性という観点から歴史的に考察し、「いま」そして「これから」の教育・保育という営みへのより深い理解と検討のために、教育・保育の歴史を学ぶことを目指します。</p> <p>到達目標は、以下の3つです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代から現代までの教育・保育の歴史の展開を理解し、その社会的意味を考察できる。 ・教育・保育に係る思想やその制度の歴史を理解し、議論できる。 ・現代における教育・保育の課題を歴史的な視点から考察し、議論できる。 				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス—教育・保育における思想と歴史の概観 2. 子ども観の歴史の変遷 3. 近代における西洋の教育思想の外観 4. 近代における西洋の教育思想—ルソー 5. 近代における西洋の教育思想—ペスタロッチ 6. 近代における西洋の教育思想—フレーベル 7. 近代における西洋の教育思想—デューイ 8. 近代における西洋の教育思想—モンテッソーリ 9. 日本における教育・保育思想の概観 10. 日本における教育・保育の歴史—明治期 11. 日本における教育・保育の歴史—大正期 12. 日本における教育・保育の歴史—昭和前期 13. 日本における教育・保育の歴史—昭和後期 14. 日本における教育・保育の歴史—平成期 15. 現代社会における教育・保育の今日的課題 <p>定期試験は実施しない。</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>適宜資料等を配付します。</p> <p>テキスト：文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館，2018年 森上史朗・柏女霊峰編著『保育用語辞典 第8版』ミネルヴァ書房，2015年</p> <p>参考書：伊藤潔志編著『哲学する保育原理』教育情報出版，2018年 石村華代・軽部勝一郎編著『教育の歴史と思想』ミネルヴァ書房，2013年</p>				
準備学習の 具体的内容	<p>参考書に挙げているテキストや、その他本教科に関する文献やテキストを図書館等で探し、事前に目を通しておきましょう。各回の授業内容に該当する箇所を読んでおくにより理解が深まります。</p>				
評価の方法 基 準	<p>レポート(50%) 発表の準備及び発表内容(30%) 授業内での議論への積極的な参加及びコメントカード(20%) 等により総合的に評価します。</p>				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	保育臨床専攻	担当教員名	小久保 圭一郎		
授 業 科 目	比較教育特論	科目区分	専門科目	2 単 位	
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	2 年次・後期
授業の主題 目 標	<p>本教科ではまず、日本における教育・保育政策の動向を概説します。さらに各国や地域における現状と課題について、議論しながら考察します。その上で、各国の教育・保育の制度・保育者・就学前教育保育機関等についてテーマを設定し、調べ、まとめ、発表していきます。これらを通して、教育という営みを他の国や地域の事例と比較しながら検討することで、日本における教育と社会の関係について理解を深めたり、日本で当たり前として広まっていることに疑問を抱いたりできるようになることを目指します。</p> <p>到達目標は以下の3つです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 諸外国の教育改革の動向を理解する。 ・ 日本の教育・保育の現状と課題について理解する。 ・ 日本と諸外国の教育・保育を比較検討し、議論できる。 				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスー比較教育特論における視座 2. 日本における教育・保育政策の動向 3. 日本における教育・保育政策の変遷ー戦前 4. 日本における教育・保育政策の変遷ー戦後 5. 諸外国における教育・保育政策の動向ーイギリス 6. 諸外国における教育・保育政策の動向ーアメリカ 7. 諸外国における教育・保育政策の動向ー中国 8. 諸外国における教育・保育政策の動向ーシンガポール 9. 諸外国における教育・保育政策の動向ードイツ 10. 諸外国における教育・保育政策の動向ーイタリア 11. 諸外国における教育・保育政策の動向ーフィンランド 12. 諸外国の教育・保育に関する議論ーテーマ設定 13. 諸外国の教育・保育に関する議論ー考察 14. 諸外国の教育・保育に関する議論ー発表 15. まとめー比較教育論的視座による日本における教育・保育政策の今日的課題の検討 <p>定期試験は実施しない。</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>適宜資料等を配付します。</p> <p>テキスト：文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館，2018年 森上史朗・柏女霊峰編著『保育用語辞典 第8版』ミネルヴァ書房，2015年 参考書：原清治，杉本均，山内乾史『比較教育学へのイメージ』学文社，2016年</p>				
準備学習の 具体的内容	<p>参考書に挙げているテキストや、その他本教科に関する文献やテキストを図書館等で探し、事前に目を通しておきましょう。各回の授業内容に該当する箇所を読んでおくことより理解が深まります。</p>				
評価の方法 基 準	<p>レポート(50%) 発表の準備及び発表内容(30%) 授業内での議論への積極的な参加及びコメントカード(20%) 等により総合的に評価します。</p>				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	眞次 浩司 (実務経験あり)		
授 業 科 目	特別支援教育特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	インクルーシブ教育システムの理念や仕組みを知り、説明できる。 特別支援教育制度の基本的事項を知り、特別支援教育の課題について説明できる。				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 『特別支援学校教育要領』改訂の経緯と基本方針 自立活動の変遷と障がいの捉え方 自立活動の要点 自立活動の意義と指導の基本 総則における自立活動 自立活動の内容－1 健康の保持－ 自立活動の内容－2 心理的な安定－ 自立活動の内容－3 人間関係の形成－ 自立活動の内容－4 環境の把握－ 自立活動の内容－5 身体の動き－ 自立活動の内容－6 コミュニケーション－ 個別の指導計画の作成と作成の手順 他領域・教科等との関連、指導の創意工夫、自立活動を主とした指導 教師の協力体制、専門の医師等との連携協力 個別の教育支援計画等の活用 <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容	特別支援学校での実務経験を活かし、個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成意義及び作成・評価・修正過程 (PDCA サイクル) に関して実践的に教授する。				
テ キ ス ト 教 材	文部科学省 (編) (2018) 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編』開隆堂出版 文部科学省 (編) (2017) 『特別支援学校 幼稚園教育要領・小学部；中学部学習指導要領』開隆堂出版 文部科学省 (編) (2018) 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編』開隆堂出版 西岡育子 (編) (2017) 『平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (原本)』チャイルド社 その他、適宜資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	テキストの該当部分を予習・復習する。 授業中で、特に調べてくる事項について調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	授業後のレポート計 15 回 (100%) レポートは、毎回 S・A・B・C・D の評価を付ける。 提出日後の提出は減点する。				
履 修 上 の 注 意	パソコン、携帯等に「Google Classroom」アプリをインストールする。 毎時間のレポートは、「Google Classroom」で提出する。				

学 科	保育臨床専攻	担当教員名	小久保 圭一郎		
授 業 科 目	子どもの人権教育論	科目区分	専門科目	2 単 位	
必修・選択	必修	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	<p>本教科ではまず、子どもの権利条約に示される子どもの人権について理解します。その上で、子どもの権利のなかでも教育・保育に関わる権利を取り上げ、議論しながら考察していきます。さらに、子どもたちの教育・保育や生活について調べ、人権の観点から考察しまとめ、発表し議論します。</p> <p>子どもだからこそ独自の権利があるという考え方は、歴史のなかで生み出されてきたものであり、子どもの人権の歴史や理念を理解することが、今日的課題の検討につながるのです。</p> <p>到達目標は以下の3つです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの権利について理解し、基本的な知識を得る。 ・子どもの権利の歴史について理解し、その理念について考察できる。 ・子どもの人権について考察し、人権をどう守るか具体的に議論できる。 				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人権とは何か 2. 人権の理念と歴史 3. 歴史の中の子ども—児童労働との関係から 4. 子どもの権利の思想的基盤 5. 子どもの権利とは 6. 子どもの権利をどうとらえるか 7. 子どもの権利—最善の利益・発達 8. 子どもの権利—教育・保育 9. 子どもの権利—学校へ行かないこと・行けないこと 10. 子どもの権利—生活水準・学校給食をめぐって 11. 子どもの権利—虐待と分離 12. 子どもの権利—少年犯罪と少年法 13. 子どもの権利委員会 14. 子どもと人権 15. まとめ—子どもの人権に係る今日的課題の検討 <p>定期試験は実施しない。</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>適宜資料等を配付します。</p> <p>テキスト：文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館，2018年 中坪史典・山下文一・松井剛太・伊藤嘉余子・立花直樹編集『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』ミネルヴァ書房，2021年</p> <p>参考書：日本弁護士連合会子どもの権利委員会『子どもの権利ガイドブック第2版』明石書店，2017年木附山崎聡一郎『こども六法』光文堂，2019年</p>				
準備学習の 具体的内容	<p>参考書に挙げているテキストや、その他本教科に関する文献やテキストを図書館等で探し、事前に目を通しておきましょう。各回の授業内容に該当する箇所を読んでおくことより理解が深まります。</p>				
評価の方法 基 準	<p>レポート(50%) 発表の準備及び発表内容(30%) 授業内での議論への積極的な参加及びコメントカード(20%) 等により総合的に評価します。</p>				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	長 櫓 涼 子		
授 業 科 目	発達心理学特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年 次 ・ 前 期
授業の主題 目 標	<p>生涯発達を踏まえ、身体、知覚、記憶・認知、知能・思考、言語・コミュニケーション、社会性、親密性、パーソナリティの発達の様相を学ぶ。子ども達の将来的な成長や発達の見通しを持ちながら関わることや、発達に見合った関わりがもたらす学習効果について理解することを目標とする。</p> <p><到達目標></p> <p>(1)生涯発達の基礎理論をもとに、人の発達過程を理解できる。</p> <p>(2)各発達段階の特徴を踏まえ、保育の中で見通しを持った子どもとの関わりを想定できる。</p> <p>(3)発達を踏まえた保育者の関わりが子どもに与える学習効果を考えられる。</p>				
授業の内容 進 め 方	<p>1. 生涯発達の視点と保育・幼児教育 シラバスを参考に授業内容と進め方、評価方法等を解説 (1)生涯発達とは (2)発達段階のおさらい (3)生涯発達の視点から捉える乳幼児期の重要性について</p> <p>2. 生涯発達の基礎課題 (1)発達の連続性と非連続性 (2)発達の規定因 (3)発達観について</p> <p>3. 身体の生涯発達—① (1)器官の成長・衰退・器官差 (2)身長と体重の変化 (3)性差</p> <p>4. 身体の生涯発達—② (1)粗大運動と微細運動の発達 (2)脳神経系の発達 (3)身体の異常 (先天異常/生活習慣病)</p> <p>5. 知覚の生涯発達—① (1)視覚の発達と低下 (2)聴覚の発達と低下 (3)触覚の発達と低下</p> <p>6. 知覚の生涯発達—② (1)触覚の発達と低下 (2)味覚・臭覚の発達と低下 (3)感覚の統合</p> <p>7. 記憶・認知の生涯発達 (1)記憶の萌芽 (2)表象機能の発達 (3)自己中心性/自己中心性からの脱却 (4)記憶と認知の完成</p> <p>8. 知能・思考の生涯発達—① (1)知能とは何か/思考とは何か (2)表象的思考の発達 (3)素朴理論の発達</p> <p>9. 知能・思考の生涯発達—② (1)読み書き能力の発達 (2)自立的な課題解決の発達 (3)論理的思考・批判的思考の発達</p> <p>10. 言語・コミュニケーションの生涯発達 (1)言語獲得とコミュニケーションの発達 (2)原初的なコミュニケーション (3)言語を超えたつながり (4)文章作成と主体/文章作成とアイデンティティ</p> <p>11. 親密性の生涯発達—① (1)親密性とは (2)養育者との関係 (3)親しい友人関係の形成</p> <p>12. 親密性の生涯発達—② (1)異性との関係 (2)家族としてつながる (3)守られる立場から守る立場へ</p> <p>13. 社会性の生涯発達 (1)身近な大人の影響力 (2)仲間の影響力 (3)メディアの影響力</p> <p>14. パーソナリティの生涯発達 (1)パーソナリティの5つの原理 (2)気質とパーソナリティ (3)価値観 (4)自己概念</p> <p>15. まとめ</p> <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<ul style="list-style-type: none"> ・西村純一・平野真理 (編)『生涯発達心理学』ナカニシヤ出版/ISBN9784779513435 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 ISBN978-4-577-81424-6 ・その他適宜資料配布 				
準備学習の 具体的内容	<p>テキストおよび授業資料について予習・復習をする。 これまでに単位修得した発達心理学関連領域の復習をする。</p>				
評価の方法 基 準	<p>授業での課題(50%) 最終レポート (50%)</p>				
履 修 上 の 注 意	<p>授業内容に関連して授業時間外での予習・復習が必要となる。 初回授業でシラバスを使用する。</p>				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	長 櫓 涼 子 (実務経験あり)		
授 業 科 目	教育相談特論	科目区分	専門科目	2 単 位	
必修・選択	必修	授業形態	講義	開 講 時 期	2 年 次 ・ 前 期
授業の主題 目 標	<p>教育相談は、幼児、児童および生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。発達状況に即し、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎知識を学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <p>(1)教育相談の意義と理論を理解する。</p> <p>(2)教育相談に必要な基礎知識(カウンセリングマインドに基づいたカウンセリング技法)を身につける。</p> <p>(3)各発達期の特徴と諸問題を理解し、計画に基づいた組織的な取り組みや連携を理解する。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育相談の理解 シラバスを参考に授業内容と進め方、評価方法等を解説 (1)教育相談の定義、意義、目的 (2)教育相談の種類と実際(問題解決的教育相談/予防的教育相談/開発的教育相談) 2. 教育相談の基礎理論 (1)教育相談を支える心理学(臨床心理学/カウンセリング心理学/学校心理学) 3. 子どもの発達段階の理論/各発達段階特有の課題について (1)発達段階の理論(フロイト/ピアジェ/エリクソン) (2)乳幼児期:愛着形成 (3)児童期:仲間関係 (4)青年期:同一性の確立と職業 4. 子どもの抱える困難さ(反社会的行動/非社会的行動/特別な支援を必要とする子ども) 5. 教育相談の方法—① アセスメント(情報収集)の方法 (1)観察法 (2)面接法 (3)質問紙調査法 (4)検査法 (5)作品法 (6)事例研究法 6. 教育相談の方法—② アセスメントにおける諸注意 (1)心構え(インフォームド・コンセント/アカウンタビリティ/秘密保持/対象との関係) 7. 教育相談の方法—③ 行動観察の実際 (1)継続的観察 (2)焦点化観察 (3)自然的観察 (4)実験的観察 (5)記録の取り方 8. 教育相談の方法—④ アセスメント面接の実際 (1)心構え (2)面接初期/面接中期/面接後期 (3)言語・非言語によるコミュニケーションの理解 9. 教育相談の方法—⑤ 心理検査の実際 (1)知能検査(ビネー式知能検査/ウェクスラー式知能検査/その他/留意事項) (2)発達検査(質問紙による発達検査/個別式発達検査/その他/留意事項) 10. 教育相談の方法—⑥ 心理検査の実際 (1)学力検査 (2)適性検査 (3)性格検査 (4)検査バッテリーについて 11. 教育相談の方法—⑦ 質問紙調査の実際 (1)メンタルヘルス関係質問紙法 (2)パーソナリティ関係の質問紙法 (3)注意事項 12. 教育相談の実際—① チームで行う教育相談 (1)組織 (2)多様な相談資源(人的資源)の利用について (3)多様な相談資源(社会的資源)の利用について 13. 教育相談の実際—② 相談支援の現場 14. 教育相談の実際—③ コンサルテーションについて 15. 教育相談を行う専門職者のメンタルヘルス、まとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容	<p>幼児の発達巡回指導、小学校での特別支援事業での経験を活かし、子どもの抱える困難さ、教育相談の方法、教育相談の実際などについて講じる。</p>				
テ キ ス ト 教 材	<ul style="list-style-type: none"> ・高柳真人・前田基成・服部環・吉田武男(編著)『MINERVA はじめて学ぶ教職⑩ 教育相談』ミネルヴァ書房/ISBN978-4-623-08526-2 ・『幼稚園教育要領』フレーベル館/ISBN978-4-577-81422-2 ・その他適宜資料を配布 				
準備学習の 具体的内容	<p>テキストおよび授業資料について予習・復習をする。</p>				
評価の方法 基 準	<p>毎授業ごとの課題達成度 (50%) 報告書 (50%)</p>				
履 修 上 の 注 意	<p>授業内容に関連して授業時間外での予習・復習、課題遂行が必要となる。 初回授業でシラバスを使用する。</p>				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	長 櫓 涼 子		
授 業 科 目	保育・教育臨床心理学実践特論	科 目 区 分	専 門 科 目	2 単 位	
必修・選択	必修	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年 次 ・ 後 期
授業の主題 目 標	<p>保育・幼児教育の現場では、長期的な子どもへの関わりを通して情報を収集・分析し、保育者の関わりが子どもの成長発達に与える効果について研究がなされる。本講義では、保育者・教育者として、子どもや養育者等の対象理解を行うための心理学的研究法を学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <p>(1) 保育幼児教育における学問的な知識に基づき、保育実践における問題意識や目的意識を認識できる。</p> <p>(2) 研究倫理を理解し、適切な研究計画を立案できる。</p> <p>(3) 適切な方法により情報を収集、分析し、考察結果を報告書等にまとめる力を身につける。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育・幼児教育の現場における研究について シラバスを参考に授業内容と進め方、評価方法等を解説 (1) 保育・幼児教育現場における研究と研究発表の実際について 2. 研究倫理の理解 (1) 保育学における研究倫理 (2) 関連諸領域における研究倫理 (3) 研究倫理 e ラーニングの紹介 3. 研究計画の立案方法 (1) 先行研究のレビュー (2) 問題の設定 (3) 研究法の選択(実験法/質問紙調査法/観察法/面接法/検査法/実践的研究) 4. 研究法—①実験法(実験法の概要/剰余変数・交絡変数の統制/要因計画法/様々な実験法) 5. 研究法—②質問紙調査法(質問紙調査法の概要/基礎概念/質問紙調査の分類とデータ収集の手順) 6. 研究法—③観察法(観察法の概要/量的方法/質的方法/倫理的配慮) 7. 研究法—④面接法(面接法の概要/調査面接法/臨床面接法) 8. 研究法—⑤検査法(検査法の概要/知能検査/発達領域の検査/パーソナリティ検査/適応行動・生活機能検査) 9. 研究法—⑥実践的研究法(実践的研究法の概要/事例研究/実践的フィールドワーク/アクション・リサーチ) 10. データ処理—① 尺度の種類とデータ整理 11. データ処理—② 基礎統計 12. データ処理—③ 推測統計 13. データ処理—④ 仮説検定 14. 報告書のまとめ方(問題と目的/方法/結果/考察とまとめ/引用参考文献) 15. まとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<ul style="list-style-type: none"> ・三浦麻子・小島康生・平井啓(編著)『心理学研究法』ミネルヴァ書房/ISBN978-4-623-08614-6 ・『幼稚園教育要領』フレーベル館/ISBN978-4-577-81422-2 ・適宜資料を配布する。 				
準備学習の 具体的内容	研究立案やデータ収集の方法について事前学習が必要となる場合がある。				
評価の方法 基 準	<p>毎授業ごとの課題達成度 (60%)</p> <p>報告書 (40%)</p>				
履 修 上 の 注 意	<p>授業内容に関連して授業時間外での予習・復習、課題遂行が必要となる。</p> <p>初回授業でシラバスを使用する。</p>				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	浅野 泰昌		
授 業 科 目	児童文化学特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	<p>人間は文化的存在であり、乳幼児期の子どもの保育・幼児教育には文化的な視点が求められる。本授業では、現在の子どもたちを取りまく社会的・文化的状況をふまえ、理論と実践の両面から、児童文化についての学習を深める。</p> <p>1) 児童文化の歴史・概念・定義・対象・領域等に関する学びを深め、その意義を理解する。 2) 児童文化の構造的把握の方法を、伝統と継承及び創造の視点から追究する。 3) 各論として、様々な児童文化財の内在理論と技術を習得する。これをもとに、子育てや保育における児童文化の複合的展開方法を構想・実践する。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童文化とはなにか (1) 概念・定義 2. 児童文化とはなにか (2) 対象・領域 3. 子どもの生活と文化の現状とその問題点 (1) 内容 4. 子どもの生活と文化の現状とその問題点 (2) 媒介手段 5. 児童文化の伝統と継承及び創造、児童文化に関わる政策 6. 作家論 7. 作品論 8. 各論(1) 子ども・子育てと絵本 (1) 絵本の本質 9. 各論(2) 子ども・子育てと絵本 (2) 対象と伝達 10. 各論(3) 子ども・子育てと児童文学 11. 各論(4) 子ども・子育てと舞台芸術 (1) 乳児期 12. 各論(5) 子ども・子育てと舞台芸術 (2) 幼児期 13. 各論(6) 子ども・子育てと舞台芸術 (3) 児童期 14. 各論(5) 子育てと玩具 15. 各論(6) 子育てと遊び <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>文部科学省：『幼稚園教育要領解説』、フレーベル館、2018年。 厚生労働省：『保育所保育指針解説』、フレーベル館、2018年。 内閣府・文部科学省・厚生労働省：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』、フレーベル館、2018年。 川勝泰介（編著）：『よくわかる児童文化』、ミネルヴァ書房、2020年。</p>				
準備学習の 具体的内容	<p>指定された資料・テキストにより、次回の授業内容の予習をする。演習の準備（製作、練習等）をする。 授業後に内容を振り返り、気づきと学びをまとめる。</p>				
評価の方法 基 準	<p>受講態度（平素の取り組みや学習への参加、協同的学びへの貢献）（40%） 期末課題（60%）</p>				
履 修 上 の 注 意	<p>積極的な態度で受講することを希望する。 知識や技術の修得だけでなく、考える態度や物の見方や考え方を培う姿勢を重視する。</p>				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	及川 直樹		
授 業 科 目	幼稚園体験活動		科目区分	専門科目	4 単 位
必修・選択	必修	授業形態	演習	開 講 時 期	2年次・通年（集中）
授業の主題 目 標	<p>本授業は、幼稚園や認定こども園において、教諭としてのインターンシップ・職業体験の機会として位置付けられています。具体的には、幼稚園や認定こども園における教育活動やその他の業務全般について、支援や補助業務を行います。これらの体験を通して、教諭の職務の実態を把握し、自己の適性や課題を明確にし、今後のキャリア形成に資することを目的としています。到達目標は、次の3点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学級担任の補助的な役割を担う中で、教諭の職務内容を理解する。 2) 様々な活動の場面において、適切に幼児と関わることができる。 3) 保育に必要な基礎的技術（幼児理解、環境の構成、保育の展開など）を身に付ける。 				
授業の内容 進 め 方	<p>幼稚園体験活動の概要は、以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 期間・日程（予定） 10月中旬に5日間の体験活動を行う。 なお、体験活動の前後に、事前訪問（9月中）と事後訪問（10月下旬）を行う。 2) 配属園 倉敷市保健福祉局子ども未来部保育・幼稚園支援室および倉敷市教育委員会の協力を得て、倉敷市公立認定こども園および幼稚園で実施する。 3) その他 幼稚園体験活動の事前・事後指導の日程は、掲示板を通して提示する。 <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省） 必要に応じて、適宜資料を配布します。				
準備学習の 具体的内容	幼稚園教育要領解説や本科2年次の教育実習における実習日誌等を読み返し、保育者の職務について自分なりに考えること。				
評価の方法 基 準	事前・事後指導への参加状況（20%） 体験活動に取り組む姿勢、活動記録、活動報告書（80%）				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	栗原 典子		
授 業 科 目	幼児の国際理解演習		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	2 年次・前期
授業の主題 目 標	<p>主題：外国文化と、そこでの保育・幼児教育に関して学びます。 目標：多様な文化圏における保育・幼児教育に焦点を当てながら、異文化に関する情報を調べ・読み・考え、発表する力を身につけることを目指します。具体的な目標は次の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 異文化に関する習慣や態度、生活様式、思考様式などに関する知識を広げます。 2. 異文化における幼児教育についての知識と理解を深めます。 3. 幼児教育の現場における異文化理解の問題を調査し、解決策について考えます。 				
授業の内容 進 め 方	<p>外国の児童書や絵本、保育・幼児教育に関する学術論文やエッセイ、TV番組、映画、ドラマなど外国の保育事情に関連した新聞・雑誌の記事などをおとして、幅広く外国文化・教育について学びます。それぞれのメディアに登場する内容に関して背景情報をよく調べ、かつ自ら考えることを重視し、その結果をクラスで発表し学び合うという過程を通して、内容理解を深めていきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 絵本 (外国1 欧米) 3. 絵本 (外国2 アジア, アフリカ) 4. 児童書 (外国1 欧米) 5. 児童書 (外国2 アジア, アフリカ) 6. 新聞・雑誌記事 (外国1 欧米) 7. 新聞・雑誌記事 (外国2 アジア, アフリカ) 8. 保育事情ドラマ (外国1 欧米) 9. 保育事情ドラマ (外国2 アジア, アフリカ) 10. 英語論文/英語の website (幼児教育 外国1 欧米) 11. 英語論文/英語の website (幼児教育 外国2 アジア) 12. 英語論文/英語の website (幼児教育 外国3 アフリカ) 13. 英語論文/英語の website (異文化理解 1 欧米) 14. 英語論文/英語の website (異文化理解 2 アジア) 15. 英語論文/英語の website (異文化理解 3 アフリカ) <p>定期試験は実施しない。</p> <p>◎受講生の学修状況や理解度を見て、進度や順序を調整する場合があります。</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	グレード別読本 (Graded Readers) 『実践ロイヤル英文法』旺文社 (参考図書)				
準備学習の 具体的内容	授業で扱う題材を読んで、質問点を明確にしてくること。				
評価の方法 基 準	<p>積極的な授業参加 (30%) 課題 (30%) 発表 (40%)</p>				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	栗原 典子		
授 業 科 目	専門英語文献講読		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授業形態	演習	開講時期	1年次・通年
授業の主題 目 標	<p>主題：英語で書かれた保育・幼児教育に関する文献を講読します。 目標：保育・幼児教育のスキーマを利用しながら、英語文献を自分で読み・調べ・考え、発表する力を身につけることを目指します。具体的な目標は次の通りです。 1. 英語を意欲的に読もうとする態度を育てます。 2. 背景知識や重要な専門用語について理解を深めます。 3. 研究論文の読み方や調べ方の基礎を学習します。</p>				
授業の内容方 進 め 方	<p>英語圏の児童書や絵本，保育・幼児教育に関する学術論文やエッセイ，英米の保育事情に関連した物語など，幅広い英文の読解を行います。単なる英文和訳に終わらないように，背景情報をよく調べ，かつ自ら考えることを重視し，その結果をクラスで発表し学び合うという過程を通して，語学上の問題を解決するとともに，内容理解を深めていきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 絵本 読前指導 3. 絵本 購読(1)構成 4. 絵本 購読(2)特徴 5. 絵本 発表と読後指導 6. 児童書 読前指導 7. 児童書 講読Introduction 8. 児童書 講読Development 9. 児童書 講読Denouement 10. 児童書 講読Conclusion 11. エッセイ 読前指導 12. エッセイ 英文構成とパラグラフ 13. エッセイ 読むテクニック 14. エッセイ 練習問題と読後指導 15. 中間発表 16. 保育事情ドラマと英語 Introduction 17. 保育事情ドラマと英語 Appreciation 18. 保育事情ドラマと英語 Application 19. 英語論文 読前指導 20. 英語論文 講読 Introduction 21. 英語論文 講読 Literature Review 22. 英語論文 講読 Methodology 23. 英語論文 講読 Procedure 24. 英語論文 講読 Participants 25. 英語論文 講読 Statistics 26. 英語論文 講読 Tables and Figures 27. 英語論文 講読 Findings 28. 英語論文 講読 Discussion 29. 英語論文 講読 Conclusion 30. 最終発表 <p>定期試験は実施しない。</p> <p>◎受講生の学修状況や理解度を見て，進度や順序を調整する場合があります。</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	グレード別読本 (Graded Readers) 『実践ロイヤル英文法』旺文社 (参考図書)				
準備学習の 具体的内容	授業で扱う題材を読んで，質問点を明確にしてくること。				
評価の方法 基 準	積極的な授業参加 (30%) 課題 (30%) 発表 (40%)				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	宮崎 正宇 (実務経験あり)		
授 業 科 目	児童福祉特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1, 2 年次・前期 (隔年)
授業の主題 目 標	<p>(授業の主題) 児童家庭福祉分野におけるソーシャルワークの基本概念や構造について学ぶとともに、乳児院や児童養護施設等といった児童福祉施設におけるソーシャルワークだけでなく、学校におけるスクールソーシャルワークについても理解する。</p> <p>(到達目標) 1. 児童家庭福祉分野におけるソーシャルワークの基本概念や構造が理解できる。 2. 児童福祉施設におけるソーシャルワークが理解できる。 3. 学校におけるスクールソーシャルワークが理解できる。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童家庭福祉分野におけるソーシャルワーク 2. 児童福祉施設におけるソーシャルワーク 3. 保育所と地域子育て支援センターでのソーシャルワーク 4. 乳児院におけるソーシャルワーク 5. 児童養護施設におけるソーシャルワーク 6. 地域小規模児童養護施設におけるソーシャルワーク 7. 児童心理治療施設におけるソーシャルワーク 8. 自立援助ホームにおけるソーシャルワーク 9. 退所児童等アフターケア事業とソーシャルワーク 10. 社会的養護にかかわる当事者団体のソーシャルワーク活動 11. 分園型小規模グループケアと里親支援におけるソーシャルワーク 12. 児童養護施設と学校をつなぐソーシャルワークの展開 13. 学校におけるソーシャルワークの展開とその展望 14. 学校におけるスクールソーシャルワーカーの支援 15. 児童家庭福祉の課題と展望 <p>定期試験は実施しない。</p>				
実務経験を 活かす内容	児童福祉施設での個人的な体験や相談援助の事例を通して、体系的・実践的な相談援助の価値、知識、技術を教授する。				
テ キ ス ト 教 材	櫻井慶一・宮崎正宇編著『福祉施設・学校現場が拓く児童家庭ソーシャルワーク：子どもとその家族を支援するすべての人に』北大路書房 2017年 必要に応じて資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	テキストの該当部分を予習・復習する。 授業の中で、調べる必要がある事柄について調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	受講態度 (10%) コメントシート (60%) レポート (30%)				
履 修 上 の 注 意					

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	平岡 敦子 (実務経験あり)		
授 業 科 目	乳児保育特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	近年の3歳未満児保育のニーズが高まる中、保育者として乳児保育の対象者となる子どもとその環境を理解することをねらいとする。乳児の心身の発達の特徴とそれを保障するための生活環境について学び、また乳児を持つ家族の発達やその特性を、生理的な変化及び社会的環境を知り、乳児保育場面における子育て支援のあり方について学ぶことを目標とする。				
授業の内容 進 め 方	<p>本科目は以下のようにすすめていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 乳児の育つ環境と保育の課題 2. 乳児の発達と動き～発達を促すかかわり 3. 乳児の「気になる」発達とは 4. 生活習慣が及ぼす乳児の心身の健康への影響 5. 乳児の発育を促すための基本的生活習慣の獲得(1) 食事 6. 乳児の発育を促すための基本的生活習慣の獲得(2) 排泄 7. 乳児の発育を促すための基本的生活習慣の獲得(3) 睡眠 8. 乳児の発育を促すための基本的生活習慣の獲得(4) 清潔 9. 親になることー 親性の獲得と家族の変化 10. 「子育て」と「ストレス」 : 「子育て」は「ストレス」か? 11. 保育所における保護者に対する支援(1) 乳児期の家族環境の理解 12. 保育所における保護者に対する支援(2) 家族不和や虐待の子どもへの影響 13. 保育所における保護者に対する支援(3) 気になる子どもの理解とかかわり 14. 乳児保育と子育て支援～連携と調整における保育士の役割～ 15. まとめと試験 				
実務経験を 活かす内容	助産師としての臨床経験を活かして、乳児期の子どもとその家族の発達の特徴を理論的に理解し、保育の現場で出会う乳児と家族への保育支援を実践するために必要な知識と方法について具体例を用いて講じる。				
テ キ ス ト 教 材	<p>毎回、プリントを配布。 他の参考文献は授業中に提示する。 参考資料：赤ちゃんから学ぶ「乳児保育」実践力-保育所・家庭で役立つ-</p>				
準備学習の 具体的内容	授業資料やテキストの予習・復習をする。受講する者はプレゼンテーションの機会があるため、パソコンなどの機器が使えることが望ましい。				
評価の方法 基 準	<p>定期試験 (40%) プレゼンテーション課題の達成度 (60%)</p>				
履 修 上 の 注 意	授業内容に関連した社会時事について関心を持ち、課題発表にはその事前学習が十分に反映されることを求める。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	木戸 啓子		
授 業 科 目	親子支援演習		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・通年
授業の主題 目 標	<p>(授業の主題) 親子交流施設の場に継続的に関わることで、親子支援の進め方を理解する。また、自らが計画-実践-評価を行い、親子交流広場の運営・管理に関わる具体的知識・技術、職員の連携のあり方について理解する。</p> <p>(到達目標) 親子と交流することで、親子交流のあり方、子育て支援の方法と課題を理解する。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 親子交流施設の理解 (1) 親子交流広場を観察し、親子の姿を把握する。 2. 親子交流施設の理解 (2) 親子交流広場を観察し、支援者の役割を理解する。 3. 親子交流施設の理解 (3) 親子交流広場を観察し、親子の様子からケースカンファレンスを行う。 4. 親子交流施設の理解 (4) 親子交流広場での演習課題を検討する。 5. 親子支援のプログラム立案 (児童文化財) 6. 親子支援のプログラム (児童文化財) の展開 7. 親子支援のプログラムの展開 (児童文化財) に関わる事後評価 8. 親子支援のプログラム立案 (ふれあい遊び) 9. 親子支援のプログラム (ふれあい遊び) の展開 10. 親子支援のプログラムの展開 (ふれあい遊び) に関わる事後評価 11. 親子支援のプログラム立案 (表現) 12. 親子支援のプログラム (表現) の展開 13. 親子支援のプログラムの展開 (表現) に関わる事後評価 14. 親子交流広場での演習課題の総括を行う。 15. 中間まとめ 親子支援の振り返りを行う。 16. 子ども家庭福祉の制度の理解 17. 子育て支援における連携の必要性 18. 子育て支援における基本的視点 (1) 親子の視点 19. 子育て支援における基本的視点 (2) 社会の視点 20. 地域子育て支援拠点の成り立ち 21. 地域子育て支援拠点の制度上の位置づけ 22. 地域子育て支援拠点ガイドラインについて (1) 基本的な考え方 23. 地域子育て支援拠点ガイドラインについて (2) 支援者の役割 24. 地域子育て支援拠点ガイドラインについて (3) 子どもの遊びと環境 25. 地域子育て支援拠点ガイドラインについて (4) 親との関係性 26. 地域子育て支援拠点ガイドラインについて (5) 受容と自己決定 27. 地域子育て支援拠点ガイドラインについて (6) 運営管理と活動の改善 28. 地域子育て支援拠点ガイドラインについて (7) 職員同士の連携と研修 29. 地域子育て支援拠点における課題 30. まとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	渡辺顕一郎・橋本真紀「地域子育て支援拠点ガイドラインの手引き」中央法規 厚生労働省「保育所保育指針解説 (平成 30 年施行)」フレーベル館 ※ 参考図書の提示や資料配布などは、授業の中で適宜行う。				
準備学習の 具体的内容	実際に親子交流施設“倉短ひろば くららっこ”での実践を伴うため、日常的に子育て支援の話題に触れ、積極的な姿勢での参加が望まれる。				
評価の方法 基 準	親子交流広場への積極的参加態度 (20%) プログラムの計画及び実践 (30%) 自己評価能力 (30%) 最終レポート (20%)				
履 修 上 の 注 意	親子交流広場“倉短ひろば くららっこ”への日常的な参加観察を心がける。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	三川 美幸 (実務経験あり)		
授 業 科 目	子どもの音楽療法		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	2 年 次 ・ 後 期
授業の主題 目 標	<p>保育領域において援用できる音楽療法の視点, および子どもの育ちを支える音楽を媒体とした援助理論と手法について理解する。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽のもつ機能と子どもへの心理的・生理的作用について理解する。 ・音楽を媒体とした子どもとの関わりの特徴, 発達との関わりについて理解する。 ・音楽療法的な視点からの音楽表現の援助について理解を深める。 				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「音楽」・「療法」について 2. 音楽表現における音楽療法からの視点 3. 子どもの音楽療法の特徴 4. 音楽の機能と療法の背景理論 5. 活動の提供方法について 6. 音楽療法の2本の柱 7. 音楽的対話について 8. オルフの音楽構造①ベースの働き 9. オルフの音楽構造②創造的な活動 10. 創作の意味について 11. 事例検討1 (音楽と文化財の使用) 12. 事例検討2 (子どもの動表現) 13. 事例検討3 (後方支援としての音楽療法) 14. 活動の提供方法について 15. グループ討議・まとめ <p>定期試験は実施しない。</p>				
実務経験を 活かす内容	教育および保育臨床現場での実務経験を活かし, 様々な子どもの音楽療法理論の保育領域への援用について実践的教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	<ul style="list-style-type: none"> ・稲田雅美(2016)『こころをつなぐミュージックセラピー』 ・高山仁著(2014)『みんなで音楽』音楽之友社(幼児と音楽遊び演習Ⅱテキスト) <p>参考書 : 若尾裕(1998)『子どもの音楽療法ハンドブック』音楽之友社 石井玲子(2020)『音楽表現』教育情報出版(幼児と音楽遊び演習Ⅰテキスト) ミネルヴァ書房稲田雅美(2003)『対話のエチュード』音楽之友社</p>				
準備学習の 具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの指定された課題を予習する。 ・授業の中で, 事前に調査を求める場合がある。 				
評価の方法 基 準	<p>授業への取り組み (30%) 課題等の提出物 (30%) 課題の発表 (40%) の3つの観点から, 総合的に評価する。</p>				
履 修 上 の 注 意	<p>積極的にディスカッションに参加する姿勢を求める。 関連科目(幼児の音楽遊び演習Ⅰ・Ⅱ, 障がい児保育特論)を履修していることが望ましい。</p>				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	眞次 浩司		
授 業 科 目	障がい児保育特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	2年次・後期
授業の主題 目 標	<p>子どもの成長、精神発達という軸のなかでSLD・ADHD・ASD児の成長、精神発達を理解する。 社会・文化という軸のなかでSLD・ADHD・ASD児の精神障がいを理解する。 子どもの育ちは、マニュアル通りにいかないことを理解する。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達障がいとは何か一定義ー 2. 全般的な発達の遅れ 3. 発達障がいと内因・外因・環境因 4. 発達の領域分けー不安・緊張・孤独ー 5. 発達の遅れー言葉・認識・関係ー 6. 高い感覚性の世界ー混乱・対処努力ー 7. 高い衝動性の世界ー混乱・対処努力ー 8. ASDー知的能力・発達の歩みー 9. ASDーアタッチメント・ひとへの関心・ものへの関心ー 10. ASDの体験世界ー感覚性の高さ・認識世界ー 11. ASDの体験世界ー〈図〉と〈地〉の分化の困難さー 12. 発達関係の遅れー乳・幼児期における支援ー 13. 発達関係の遅れー学童・思春期における支援ー 14. 現代社会とASDの増加 15. ADHD一定義・落ち着きのなさとは・支援ー <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	滝川一廣（著）（2017）『子どものための精神医学』医学書院 西岡育子（編）（2017）『平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』チャイルド社				
準備学習の 具体的内容	テキストの該当部分を予習・復習する。 授業中で、特に調べてくる事項について調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	授業後のレポート計15回（100%） レポートは、毎回A・B・C・Dの評価を付ける。 提出日後の提出は減点する。				
履 修 上 の 注 意	パソコン、携帯等に「Google Classroom」アプリをインストールする。 毎時間のレポートは、「Google Classroom」で提出する。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	眞次 浩司		
授 業 科 目	子育て支援特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	2年次・前期
授業の主題 目 標	<p>特別支援学校での担任・コーディネーター経験や公認心理師等の資格を活かし、子育て支援の重要性や保育・教育相談における基本的な考え方やカウンセリング技法を教授する。</p> <p>保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。</p> <p>保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育所保育指針第4章「子育て支援」について 2. 保育カウンセリングの基本的な考え <ol style="list-style-type: none"> (2) 今、保育現場ではカウンセリングが求められている (3) 保育カウンセリングとは (4) 保護者とよい関係を作るために 3. 保育現場で使えるカウンセリング技法 <ol style="list-style-type: none"> (5) ペーシング, うなずき, あいづち (6) リフレクション (7) ミラーリング, わたしメッセージ (8) リフレーミング, 勇気づけ (9) がんばり見つけ, モデリング, ピアサポート (10) アサーション, ソリューション・フォーカスト・アプローチ 4. 保護者にかかわる保育カウンセリング <ol style="list-style-type: none"> (11) 保護者との信頼関係 (12) かかわり方のポイント (13) 関係づくりのポイント (14) 親と子の関係を支援する (15) 地域のネットワークにつなぐ <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>諸富祥彦・大竹直子（編）（2020）『保育園・幼稚園で使えるカウンセリング・テクニック』誠信書房</p> <p>西岡育子（編）（2017）『平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』チャイルド社</p>				
準備学習の 具体的内容	<p>テキストの該当部分を予習・復習する。</p> <p>各授業で学んだ知見について調査を求める場合がある。</p>				
評価の方法 基 準	<p>授業後のレポート計15回（100%）</p> <p>レポートは、毎回A・B・C・Dの評価を付ける。</p> <p>提出日後の提出は減点する。</p>				
履 修 上 の 注 意	<p>毎時間のレポートは、「Google Classroom」で提出する。</p>				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	眞次 浩司 (実務経験あり)		
授 業 科 目	子育て支援実習	科目区分	専門科目	2 単 位	
必修・選択	必修	授業形態	実習	開 講 時 期	1 年次・通年
授業の主題 目 標	観察や子どもとのかかわりを通して子どもを理解する。 既習の科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について理解する。 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 4月の親子ふれあい遊び1ー模擬保育ー 2. 4月の親子ふれあい遊び1ー実習ー 3. 4月の親子ふれあい遊び1ー反省会ー 4. 5月の親子ふれあい遊び2ー模擬保育ー 5. 5月の親子ふれあい遊び2ー実習ー 6. 5月の親子ふれあい遊び2ー反省会ー 7. 6月の親子ふれあい遊び3ー模擬保育ー 8. 6月の親子ふれあい遊び3ー実習ー 9. 6月の親子ふれあい遊び3ー反省会ー 10. 7月の親子ふれあい遊び4ー模擬保育ー 11. 7月の親子ふれあい遊び4ー実習ー 12. 7月の親子ふれあい遊び4ー反省会ー 13. 8月の親子ふれあい遊び5ー模擬保育ー 14. 8月の親子ふれあい遊び5ー実習ー 15. 8月の親子ふれあい遊び5ー反省会ー 16. 10月の親子ふれあい遊び6ー模擬保育ー 17. 10月の親子ふれあい遊び6ー実習ー 18. 10月の親子ふれあい遊び6ー反省会ー 19. 11月の親子ふれあい遊び7ー模擬保育ー 20. 11月の親子ふれあい遊び7ー実習ー 21. 11月の親子ふれあい遊び7ー反省会ー 22. 12月の親子ふれあい遊び8ー模擬保育ー 23. 12月の親子ふれあい遊び8ー実習ー 24. 12月の親子ふれあい遊び8ー反省会ー 25. 1月の親子ふれあい遊び9ー模擬保育ー 26. 1月の親子ふれあい遊び9ー実習ー 27. 1月の親子ふれあい遊び9ー反省会ー 28. 2月の親子ふれあい遊び10ー模擬保育ー 29. 2月の親子ふれあい遊び10ー実習ー 30. 2月の親子ふれあい遊び10ー反省会ー <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容	特別支援学校での実務経験を活かし、個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成意義及び作成・評価・修正過程 (PDCA サイクル) に関して実践的に教授する。				
テ キ ス ト 教 材	文部科学省 (編) (2017) 『特別支援学校 幼稚園教育要領・小学部；中学部学習指導要領』開隆堂出版 文部科学省 (編) (2018) 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編』開隆堂出版 文部科学省 (編) (2018) 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編』開隆堂出版 西岡育子 (編) (2017) 『平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (原本)』チャイルド社 その他、適宜資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	指導案を理解し、模擬保育を行う。 実習で行う遊びや支援について調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	模擬保育 (指導案：20%、教材、教具の制作・準備：20%、模擬保育態度：20%) 実習 (実習態度：20%) 反省会資料 (個別レポート：20%)				
履 修 上 の 注 意	実習は、年間計 10 回 (4 月～2 月) の実習を行う。9 月は、実施しない。 親子ふれあい教室に参加する家族に関する情報に関して、守秘義務を課す。 コロナ感染症対策のガイドラインを遵守する。守れなかった場合は、実習を中止する場合がある。 パソコン、携帯等に「Google Classroom」アプリをインストールする。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	保育学科全教員		
授 業 科 目	特別研究 I		科目区分	専門科目	4 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・通年
授業の主題 目 標	<p>(授業の主題) 学修・探求の成果論文を執筆するための基礎的知識を修得する。また、2年時に作成する「学修総まとめ科目履修計画書」に準じて、学修・探求の成果論文の構想案を作成する。</p> <p>(到達目標)</p> <p>(1) 学修・探求の成果論文のテーマ (案) を決める。 (2) 学修・探求の成果論文のテーマ (案) の着想に至った背景を説明できる。 (3) 学修・探求の成果論文の目的 (案), 手段・方法 (案) を説明できる。 (4) 学修・探求の成果論文の内容 (計画)・過程 (案) を説明できる。</p>				
授業の内容 進 め 方	<p>【クラス分け方式】</p> <p>本科目は、ゼミナール (略称:ゼミ) を中心に学修・研究を行う。ゼミでは、ゼミ担当教員の指導助言のもと、学修・探求の成果論文を執筆する。ゼミ担当教員の指導の内容・進め方等については、各研究領域の方法による。</p> <p>1～2. オリエンテーション (学位授与制度, 履修方法) (担当: 専攻科担任) 3～9. 学修・探求の成果論文のテーマ (案) の学修・探求 (担当: ゼミ担当教員) 10～11. 学修・探求の成果論文の内容 (計画)・過程 (案) の作成 (担当: ゼミ担当教員) 12～13. 学修・探求の成果論文のテーマの着想 (案) の作成 (担当: ゼミ担当教員) 14～15. 学修・探求の成果論文の目的 (案), 手段・方法 (案) の作成 (担当: ゼミ担当教員) 16～19. 学修・探求の成果論文中間発表会の資料作成 (担当: ゼミ担当教員) 20～21. 学修・探求の成果論文中間発表会 (担当: 保育学科全教員) 22～23. 学修・探求の成果論文のテーマ (案) の修正 (担当: ゼミ担当教員) 24～25. 学修・探求の成果論文の内容 (計画)・過程 (案) の修正 (担当: ゼミ担当教員) 26～27. 学修・探求の成果論文のテーマ (仮) の着想の修正 (担当: ゼミ担当教員) 28～29. 学修・探求の成果論文の目的 (案), 手段・方法 (案) の修正 (担当: ゼミ担当教員) 30. まとめ</p> <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『幼稚園教育要領』 『保育所保育指針』 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 各ゼミにおいて、演習内容に即して適宜配布する。				
準備学習の 具体的内容	演習授業の進行状況により、各ゼミにおいて準備学習についての指示をする。				
評価の方法 基 準	演習における学修過程や研究成果をもとに評価を行う。				
履 修 上 の 注 意	ゼミ担当教員の他の授業科目をできるだけ受講することが望ましい。 ゼミ配属については、希望調査をもとに調整を行う。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	保育学科全教員		
授 業 科 目	特別研究Ⅱ		科目区分	専門科目	4 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・通年
授業の主題 目 標	<p>(授業の主題)「特別研究Ⅰ」の継続科目に位置づけられる。「研究計画書(案)」(特別研究Ⅰ)にもとづいた研究課題について、必要に応じて再考や修正を加え、学修・探求の成果論文を作成する。 (到達目標) フィールドでの質的・量的調査や文献研究等を主体的に行い、独自の研究結果を得て、分析・考察を加えた後、学修・探求の成果論文にまとめる。</p>				
授業の内容 進 め 方	<p>【クラス分け方式】 本科目は、ゼミナール(略称:ゼミ)を中心に学修・研究を行う。ゼミでは、ゼミ担当教員の指導助言のもと、学修・探求の成果論文を執筆する。ゼミ担当教員の指導の内容・進め方等については、各研究領域の方法による。 学修成果論文発表会において発表を行い、学士としての能力を養う。</p> <p>1～9. フィールドでの調査実施計画(ゼミ担当教員) 調査方法や調査倫理(ゼミ担当教員) 調査計画に沿った研究の準備・実施(ゼミ担当教員) 10～13. 調査結果の分析結果の読み取り方、まとめ方等(ゼミ担当教員) 14～15. 学修総まとめ科目履修計画書の作成(ゼミ担当教員) 16～24. 学修成果発表会発表要旨・プレゼンテーション作成(ゼミ担当教員) 25～26. 学修成果発表会(保育学科全教員) 27～28. 学修・探求の成果論文の修正(ゼミ担当教員) 29～30. 学修総まとめ科目 成果の要旨作成(ゼミ担当教員)</p> <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>『幼稚園教育要領』 『保育所保育指針』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 各ゼミにおいて、演習内容に即して適宜配布する。</p>				
準備学習の 具体的内容	演習授業の進行状況により、各ゼミにおいて準備学習についての指示をする。				
評価の方法 基 準	<p>授業や研究活動への主体的な取り組み状況 修了論文 学修成果発表会・修了論文報告 学修総まとめ科目成績基準表を基に判断する。</p>				
履 修 上 の 注 意	<p>発表会の準備、運営は専攻科生の協力のもとで行う。 修了論文の提出期限(提出先:学生部)は、原則として、2年次の1月中旬(別途日時を指定)とする。 ゼミ担当教員の他の授業科目をできるだけ受講することが望ましい。</p>				